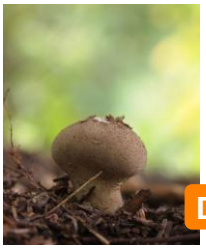
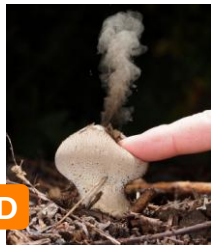
森のいきもの案内人 ピッキオ（長野県軽井沢）

森を歩けば毒にあたる

野鳥の森ネイチャーウォッチング2016秋

ピッキオの定番ガイドツアー「野鳥の森ネイチャーウォッチング」の2016年秋のテーマは毒。「森を歩けば毒にあたる」というくらい、自然界には毒を持つ生き物が満ちあふれています。特に秋は色鮮やかに目立つものが多く、毒探しにうってつけ。紅葉の森を歩きながら、ミステリアスな毒の世界をのぞいてみませんか。





毒を使いこなす生き物たち

毒は何故存在するのでしょう？　生き物にとって、毒は自らが生き抜くためのツールです。天敵から身を守ったり、獲物を捕らえたり。毒を巧みに使いこなす動植物を観察しながら森を歩きます。

毒キノコ・ラボ　NEW

毒と言えば筆頭にキノコが思い浮かびますが、キノコにも様々なタイプがあります。ピッキオ野鳥の森ビジターセンターには、期間限定で「毒キノコ・ラボ」が登場。毒キノコを含む多様なキノコの標本を通して、奥深いキノコの世界にふれることができます。

【開催日】通年毎日
（毒の見頃は9月中旬～10月下旬／毒キノコ・ラボは8月1日～10月31日）
【時　間】1日2回　10:00出発12:00まで /13:30出発15:30まで
【料　金】大人2,100円/4歳～小学生1,000円

【A】マムシグサ
見るからに毒々しい実をつけ、人が食べると激痛が走る。ただし、クマや野鳥は平気で食べる。

【B】紅葉の野鳥の森
紅葉の見頃は10月中下旬。11月上旬にはカラマツの黄葉が見頃を迎える。

【C】トリカブト
よく知られた毒草。狂言の名曲「附子（ぶす）」にも登場。

【D】ホコリタケ
指でつつくと、胞子が煙のように吹き出すキノコ。毒はないので、何度でもつついてみたくなる。

■ピッキオ
「森本来の姿を経済的な価値として高く評価できれば、未来に森を残していける」という理念の下、軽井沢を拠点に、野生動植物の調査やツキノワグマの保護管理、自然の不思議を解き明かす自然体験ツアーを行っています。
〒389-0194長野県軽井沢町星野
TEL 0267-45-7777　http://picchio.co.jp/sp

【本リリースに関する報道関係からのお問合せ先】
星野リゾート　グループ広報
TEL:03-5159-6323　FAX:03-6368-6853
mail:pr-info@hoshinoresort.com

参考資料

■軽井沢野鳥の森 毒を使いこなす生き物たち

食べられる過程で毒が
濃縮・再利用される

毒を再利用 『ヤマカガシ』

・ヤマカガシは、日本各地に暮らすありふれた蛇です。とても臆病でめったなことでは人を噛むことはありませんが、奥歯と首の付け根から毒が出ます。

・首から出る毒は、なんと、ヒキガエルを食べることで得ています。ヒキガエルがいない地域のヤマカガシにはこの毒がなく、ヒキガエルを食べさせると毒が出るようになった事例が確認されています。

美しさに惑わされてはダメ 『ツタウルシ』

・毒の成分は、ウルシオール。鮮やかな赤色を作り出す一方で、かぶれの原因にもなっています。

・初秋の森でひときわ目を引く朱色の葉が美しく、知らずに拾ってしまう人も。

・種は油分に富み、キツツキの仲間の好物です。

二重三重に保険をかける 『トリカブト』

・トリカブトは、複数の毒を身にまとっています。トリカブトを食べてしまうシカなどの動物から身を守るための毒ですが、1種類の毒のみでは効かなくなる場合があります。そんなリスクに備えて、二重三重の保険をかけているのです。

・一方でトリカブトの毒は強心剤などにも利用されています。トリカブトは危険だけれど役に立つ、魅惑的な存在といえます。

・狂言の名曲「附子」に登場する毒（実は砂糖）は、トリカブトのことだと言われています。

■軽井沢野鳥の森

1974年に指定された国設の野鳥の森で、クリやミズナラ、カラマツなどが茂る約100haの敷地には、年間約80種類の野鳥の他、ツキノワグマやニホンカモシカ、四季折々の草花など、多くの野生動植物が息づいています。バードウォッチングのシーズンは12月～5月です。